

東京江東ロータリークラブ

2024～2025年度 テーマ

ロータリーのマジック

RI 会長 ステファニー A. アーチック
地区ガバナー 石川 彌八郎

ROTARY PRIDE

～再発見・新発見～
クラブ会長 大澤 栄一

今日の卓話

国際ロータリー第2580地区
元ロータリー財団奨学生

大山 裕子氏

次回例会案内

年末家族会

No.16

第2922例会
2024年12月10日号

E-mail : koto.re@sweet.ocn.ne.jp http://www.koto-rotary.jp

例会報告

11/19 会員数 21名中 14名
出席率 70.00%
11/5 訂正出席率 なし



会長・幹事報告



- 23日(土) 青少年交換茶道稽古【裏千家今日庵 東京道場】
☆エードラさん
- 26日(火) 休会
※12月の予定「疾病予防と治療月間」
- 3日(火) 休会
- 10日(火) 理事会・例会・クラブ年次総会・次年度理事選出
- 14日(土) ロータリー研究会1日目【パシフィコ横浜】
鈴木会員・米山奨学生カンウヒョン君
青少年交換茶道稽古 エードラさん【裏千家今日庵 東京道場】
- 15日(日) ロータリー研究会2日目【パシフィコ横浜】
鈴木会員・米山奨学生カンウヒョン君
- 17日(火) 年末家族会【イースト21東京】

ニコニコボックス



大澤会長：フェアスタート様、卓話楽しみです！
堀幹事：今日もよろしくお願いします。
伊藤(三)君：今日も楽しい例会にしましょうね！
鈴木君：皆さん、よろしくお願いします。
小嶋君：冬本番と成りました、ご自愛ください。
小野君：永岡様、本日は卓話楽しみにしております。
大島君：一気に寒くなりました、皆様体調を崩さないようお気を付け下さい。
河西君：ハインズ高橋さんようこそ！
末次君：高橋さん入会をお願いします。
熊川君：本日もよろしくお願いします。
大屋君：ハインズ高橋さん、ようこそいらっしやりました。

合計 50,000円
累計 805,000円



<委員会報告・その他>

小野職業奉仕委員長：千客万来施設見学会について
次回例会は、12月17日(火) 年末家族会(夜例会)となっております。

※欠席される方は、例会前日の12時までに、事務局までお知らせください。
年内最終例会が12月24日(火)にごございます。お間違えの無いようどうぞよろしくお願いいたします。

【配布物】・週報 no.16【回覧】・なし



2024年11月のロータリーレート【1ドル153円】

事務局は午前10時から午後16時まで、囲碁や将棋・談話室として利用できます。掲示板も活用してください

●例会場/東京都江東区東陽6-3-3 ホテルイースト21東京内 TEL:03(5683)5683 ●例会日/毎週火曜日12時30分～13時30分
●事務局/東京都江東区東陽6-3-3 ホテルイースト21東京内 TEL:03(5632)3777 FAX:03(5632)3737



フェアスタートサポートでは、児童養護施設の子どもたちに対して、キャリア教育とアフターフォローの主に2つの支援をしています。現在日本には児童養護施設が約600施設あります。約23,000人が児童養護施設でくらしていますが、要保護児童数全体は約40,000人を超えています。

施設に入子ども達の家庭背景としては、昔は、親の死亡や行方不明が多かったですが、今は虐待による保護が圧倒的に増えてきていて、全体の半数以上を占めるといわれています。児童養護施設の子どもたちの多くは、18歳になり、高校を卒業すると施設を出ることになります。その後は就職するにせよ、進学するにせよ、自立が求められます。虐待が背景にある場合、親が実在するケースがほとんどですが、親との関係性が良くないため、金銭面や精神面で頼れるとはいえないものがあります。結果的に、多くの子ども達は18歳で親を頼ることなく自立することになります。

施設の高中生達は、高校卒業後、約4割が進学し、約5割が就職します。ここ数年で、施設の子ども達が給付型の奨学金を受けやすくなったため、以前のように進学するなら借金をしなければならないという状況は緩和しました。ただ、学費等は賄えても、日々の生活費は自分で稼ぎださなければなりません。結果的に、学業とアルバイトの両立に耐えられない等の理由で、進学者の約2~3割が中退をしている実情があります。就職者に関しても、特にやりたいことがない高校生は、仕事の内容よりも、住み込みで働ける社宅のある会社、といった条件面優先の就職活動を行うケースが多く、入社後に仕事にやりがいを感じられない、などのミスマッチに発展し早期離職に至りやすい実情があります。中退や早期離職が起きてしまうと、正社員としての就職の難易度が上がり、結果的に多くの施設出身者が貴重な20代を非正規雇用、不安定な収入状況で生活をしている現状があります。いわゆるワーキングプアと呼ばれる状態です。東京都が令和4年に発表した東京都内の児童養護施設の退所者へ収入状況の調査を行ったところ、約4割が月の収入が15万円未満であること、約7割が月の収入が20万円未満であることがわかりました。最低賃金が日本で一番高い自治体でこの数字です。やはり安

定した雇用形態で働けないと厳しい収入状況になってしまうことがよくわかります。

このような状況を当団体は「かわいそう」と考えるのではなく、少子化、労働人口減少の日本社会において、せつかくの貴重な若い可能性が「もったいない」ことになっている、そう考えています。この課題を解決すべく、就労支援を行っているのが当団体です。そして、これまで約10年の活動の実践から、課題解決に向け大事なポイントが少しずつ分かってきました。

テーマは「未然予防です」高校3年生の進路選択の時に、将来自分はこういった仕事をしてみたい、こんな社会人になりたい、こうした「目標」を持たれた状態で進学や就職ができれば、途中で早期にドロップアウトすることなく、力強い歩みが可能だと考えています。

また「自己決定」というキーワードもとても鍵になると考えています。誰かに決められた、促された人生ではなく、自分自身で自分がどのようなキャリアを築いて生きていきたいのかを決めていくこと、辛いことがあったとしても「自分で決めた人生だから」そう思えば、それが支えになるはずなんです。そのために必要なのが、企業のサポートです。中学生や高校生時代に、地域の様々な企業とかかわりを持ち、仕事の見学や体験ができること、見学や体験を通じて各社の経営者や社員の方から励まされること、社会人として大切な価値観を吸収できること、こうした機会をしっかりと提供できることで、本人達の社会参画の精度が高まると考えています。

実は「未然予防」と「自己決定」を意識しながら、施設の中高校生達に様々な企業に見学や体験に行ける機会を提供してきた結果、見学や体験でお世話になった会社に就職したいという高校生達が出てきました。そして、そのようなご縁の中で就職が実現したケースの1年以内離職率は約20%と、東京都が調査した施設出身者達の1年平均離職率約43%に比べてとても良いスコアとなっています。離職率が高い原因は本人達にあるのではなく、健全な就職活動における環境を私達社会が提供しきれていないことが大きな理由であると当団体としては実証でき始めていると考えています。

当団体はこれからの10年で、各地の児童養護施設と企業とが就労支援のテーマで連携していくこと、これの促進、コーディネートに力を入れて参ります。そのツールの一つとして、このような機会を提供してくださる企業の情報を各児童養護施設へ届けるためのWEBサイト「フェアスタートパートナー」<https://fspartner.org/>も2021年に立ち上げました。是非多くの企業に、見学や体験に関する情報をご掲載いただきたいと思います。そして、その情報を私達が各児童養護施設へ積極的に発信し、掲載企業とのコーディネート役も務めてまいります。もはや事業というよりは社会運動に近い動きもあるのですが、各地の企業が自分たちの地域の子どもの支援に当事者意識をもって貢献していくことはとても素敵なことだと考えています。是非こうした動きが日本に浸透していくよう、応援していただけますと幸いです。